

令和5年度 学校評価書【山形県立新庄神室産業高等学校真室川校】

教育目標「心豊かでたくましく教養ある人間を育てる」

校訓（自律・誠心・挑戦）を根底に据え目指す学校像

- 1 課題解決のために自ら行動する力を育成する学校
- 2 一人一人の進路実現に向けたキャリア教育を実践する学校
- 3 心身の健康と安全に努める学校
- 4 地域の活性化に貢献できる学校

自己評価および学校関係者評価の基準	
A：達成	B：概ね達成
C：やや不十分	D：不十分

番号	評価項目	今年度の成果と課題	自己評価	次年度への改善点	学校関係者評価	学校関係者評価委員の意見・要望
1	教育方針 学校経営	① 教育方針や学校経営に対して、生徒・保護者・教職員からの評価が前年度同様に高く、関心や理解が得られている。 ② 本校とのキャンパス制の実施については、キャンパス制運営委員会を中心に検討し、生徒及び職員が様々な活動を通し、交流を深め相互理解につなげることができた。 ③ 真室川校魅力化地域連携協議会のもと、町からの支援を受けながら様々な地域貢献交流活動を通し、「地域とともにある学校」づくりを行ってきた。地域参画に関する生徒・保護者・教職員の意識も高く、真室川校の教育活動に対して地域からの理解・共感が得られているととらえている。 ④ キャリア教育が系統的に実施されており、全教職員による連携した指導体制が確立された。	B	① 「一人ひとりがキラリと光る真校」づくりと「地域とともにある学校」づくりに向けた取組みを継続する。真室川町との連携を密にし、地域行事への参画や「地域きずな授業」などの地域交流を行うとともに、全校ボランティアなどの地域貢献活動に積極的に取り組む。 ② 少人数体制による教育活動をより強固にし、生徒と向き合う時間の確保に努める。ICT 機器を活用した働き方改革と、業務の整理統合を引き続き推進する。 ③ 「真室川校魅力化地域連携協議会」の協力をいただきながら、「魅力ある県立高校づくり」を推進するために町の文化活動や小中学校との連携をさらに深め、真室川校の教育活動をより魅力的なものとしていく。	B	○「ふきのとう」の発行やホームページの活用を進め、様々な地域貢献活動を行いながら、真室川校の魅力ある教育活動や生徒の活躍を積極的に発信してくれている。マスコミも活用しながら更に魅力を発信してほしい。 ○少人数体制による教育体制が活かされていると思う。悩みを抱える生徒がいるようなので、この利点を生かし、個々の能力を伸ばすよう指導してほしい。 ○教人数体制のメリットを活かし、今後も教育活動をより魅力的なものにしてほしい。 ○町の行事への積極的な関わりは郷土愛の醸成にもつながり、また生徒の自主性も伸ばす素晴らしいことだと思います。
2	学習指導	① ユニバーサルデザインの視点を大切にしながら、思考力・判断力・表現力を育む言語活動を積極的に授業に取り入れ、アクティブラーニングを実践することができた。 ② 新学習指導要領に基づいた学習評価の改善について教職員の研修を深めながら実施することができた。 ③ 「自分は家庭学習をしている」と答える生徒の割合を伸ばすことができなかった。 ④ 自学ノートの提出が習慣化している生徒が多い一方で、提出が滞る生徒が一定数いる。 ⑤ 年間の図書の貸し出し冊数生徒一人平均6冊以上を、達成することができた。	B	① 新しい学習評価に適合した授業展開、授業改善について、研究授業や研修会を通して継続して研究していく。 ② 生徒の言語運用能力、論理的思考力の向上について、各教科が共通して意識を高め、指導する。 ③ 個別面談を通して、各生徒の自学ノートの内容について助言を与えながら、生徒に家庭学習の大切さを教え、継続した学習ができるよう励ましていく。 ④ 生徒にとって楽しい図書館づくりをさらに進め、多読賞を受賞するような読書が好きな生徒数を増やしていく。	B	○「自学ノート」の提出が定着してきているようだが、まだ習慣化していない生徒もいるようだ。基礎・基本を定着させるために、引き続き家庭学習の習慣化を図ってほしい。 ○継続こそ力という言葉がぴったりの分野です。これからも是非お願いします。
3	進路指導	① 「キャリア学習講座」や「ソーシャルスキル学習講座」は進路意識の高揚に一定の成果があった。 ② 町と連携したインターンシップや「進路を考えるDAY」などの進路学習会を通し、多様化する進路に対し、生徒一人ひとりに対応する指導体制を維持・継続できている。 ③ 進路だよりを随時発行し、進路に関わる情報提供ができた。 ④ 面談週間を活用しながら全職員が生徒理解に努め、個々に応じた適切な支援を行うことができた。 ⑤ 企業見学や企業ガイダンスに何度も参加したことで、地域の産業の理解、勤労観の育成につなげることができた。	B	① キャリア教育を軸とし、3年間を見通した進路指導を、職員共通理解のもと推進する。 ② 企業見学、インターンシップの協力体制の継続と充実を図るとともに、町の資格取得支援を活用し、キャリア教育のさらなる充実を図る。 ③ 自学・自習が効果的に行えるよう、リーディングスキルテストを実施し、その学習アドバイスを従い努力を続けさせる。 ④ ハローワーク等外部機関と連携したキャリア講座を実施し、個に応じた手厚い就職指導を行う。 ⑤ 早期離職対策として、コミュニケーション力やソーシャルスキルの向上を目指した指導を継続する。	B	○自己肯定感の低い生徒が少なくないとのことだが、キャリア教育など様々な活動を通して主体性や前向きな思考、何でもチャレンジする心を育ててほしい。 ○地元企業の理解と協力をいただいて魅力体験ツアーを開催している。地域理解を深めてもらうとともに、地元で活躍する人材の育成を引き続きお願いしたい。 ○「コミュニケーション力」はどのような進路であれ非常に重要である。スキルアップについてはより工夫した取り組みが必要。 ○少人数であることの利点を生かし、きめ細かい対応が行き届いていることに感心します。

番号	評価項目	今年度の成果と課題	自己評価	次年度への改善点	学校関係者評価	学校関係者評価委員の意見・要望
4	生活指導	① キャリア教育に基づいた生活指導が維持できた。(日常のあいさつや身だしなみ、問題行動・いじめ防止などへの指導) ② キャリア教育に基づいた生徒会指導が維持できた。(全校ボランティア、体育祭、真校祭、リーダー研修会、執行部会、生徒集会など) ③ 縦割り班による活動が効果的に行われ、ボランティアをはじめとする行事及び諸活動で成果が上がった。 ④ 真室川祭り踊りパレードやさなぶり手仕事まつり、ホワイトアスロンなどの大きなイベントに参加したり、真校祭の一般公開により地域に貢献できた。 ⑤ 来年度に向けて、持続可能な校内行事の精選に取り組む。	B	① 現行の指導レベルを維持するため、年度初めに行っている「当校生徒指導の理念」の確認を継続する。また、生徒数等を勘案しながら、随時検討して生徒指導を行う。 ② いじめやスマホの利用について新入生に対する早期の指導を行い、問題行動の未然防止に努める。 ③ 縦割り班活動を継続し、様々な場面で取り入れ、学年間交流を通したコミュニケーション力の育成を図る。 ④ 地域貢献意欲が高い当校生徒に対し、次年度も生徒会スローガン「地域を愛し地域に生きる」が具現化できるようサポートしていく。 ⑤ 生徒数に対し行事での負担が過重であるため、各行事の縮小を検討し、個々の負担を軽減する。	B	○ゲームなどの影響により生活習慣が乱れている生徒も居るようだ。しっかりと社会人になるためにも、基本的な生活習慣を身に付けるように指導をお願いしたい。 ○少人数で一人一人に目が届き、問題行動もないようなのでとても良いと思います。この状態が続くように指導をお願いします。 ○さなぶり手仕事祭等、引き続きの関わりを期待しています。
5	健康安全	① 全校生への「命の教育」、「交通安全」、「防犯・薬物乱用防止」講話を行い、心身の健康について意識を高めることができた。 ② スクールカウンセラー(SC)による1年生全員面談を実施し、相談しやすい環境づくりおよび問題の早期発見に努めた。カウンセラーによる見立ては、生徒の特性理解につながり有効であった。 ③ スクールソーシャルワーカー(SSW)派遣事業を活用し、問題を抱える生徒への支援をより効果的に行うことができた。医療機関、行政機関との連携・協力がこれまで以上に進んだ。 ④ ストレスチェックを実施し、心身の健康について振り返らせるとともに、高ストレス者を把握し、相談活動に活かした。	B	① メンタルヘルスに関する正しい知識と対処法の習得を目指した保健指導に重点を置き、不調の未然防止を図る。 ② 学年での適時的なケース検討会を行い、特別支援の体制をさらに整える。 ③ 特別支援学校や外部支援施設との連携・協力体制の構築を継続検討する。 ④ SCおよびSSWと連携し、問題を抱える生徒への支援を早期に、組織的にしていく。 ⑤ 緊急連絡体制を周知徹底し、学校行事等での事前指導を行い、事故の未然防止に努める。 ⑥ 基本的な生活習慣を身につけさせ、健康管理の意識向上に努める。	B	○生活リズムや生活習慣をしっかりとすることは、社会に出ても必要なことです。心身の健康についての意識を高め規律正しい生活を送ることができるよう、引き続き指導をお願いしたい。 ○生徒の多様性を尊重し、ジェンダーや様々な価値観など大人や“一般”の一方的な押しつけとならぬよう、配慮しながらの指導を心掛けてもらいたい。
6	地域連携 その他	① 今年度は真室川祭り踊りパレードに参加し、生徒が活躍する場ができた。また、全校清掃ボランティアは2回実施することができ、生徒の勤労観を育成することができた。 ② 学校行事の様子やボランティア活動、校内でのあいさつ運動等の様子を、地域住民に知ってもらう手立てとして学校だより「ふきのとう」やホームページの更新を定期的の実施できた。また町の広報誌でも「真校魅力だより」を掲載していただくことでPR効果が高まった ③ 就学支援金や資格取得支援、また、学校行事等にスクールバスを利用させていただくなど、学校及び生徒に対して、町から大きな経済的支援を受け、充実した教育活動を行うことができた。 ④ コロナ禍の影響により、同窓会総会を開催することができなかった。引継ぎも行えず、来年度以降に課題を残した。	B	① 今年度よりコロナ禍から復活した行事参加を、例年以上に意識して丁寧に生徒の勤労観の育成に努める。 ② 魅力化コーディネーターとの連携をさらに密にし、学校の魅力化発信力を強化する。 ③ PTA役員体制及びその運営について大きく見直した役員体制による、より効果的な運営活動を検討する。 ④ 同窓会の引継ぎについて当番幹事同士の引継ぎが5年間途絶えているため、実施可能な行事が円滑に進むよう、連携を深める。 ⑤ 学校評価アンケートの集計作業について教職員・保護者双方の負担が軽減されるように、ICT 機器を活用し個人で入力できるシステムにし、入力の手間が省けるようにする。 ⑥ 学校連絡システムの活用について「さくら連絡網」の加入率と活用が低下しないよう、引き続きシステムについて課員で研修し、複数で情報を発信できる体制にする。	B	○全校清掃活動や除雪ボランティア、真室川音頭パレードの参加、さなぶり手仕事祭やホワイトアスロン等の町行事の協力など「地域を愛し地域に生きる」を実践し、引き続き地域連携を図りながら、地域貢献を行ってもらいたい。 ○地域の伝承野菜の栽培や真室川あさひ小の児童との合同調理実習、また真室川中学校との真室川音頭合同練習等を継続し、地域交流や地域理解をさらに図ってもらいたい。 ○「地域連携」の重要なポイントは「継続」です。今後も様々な取り組みや活躍を大いに期待します。 ○折に触れ、真室川校の取り組みを目にしたり耳にしたり、形になったものを見ることが多くなっていると思います。「開かれた学校」というイメージがつつつつあるので、もう一步地域開放が進めばいいなと思います。